

第5回 象牙取引規制に関する有識者会議 事務局資料

「第4回象牙取引規制に関する有識者会議」 における委員からの主な意見

「第4回象牙取引規制に関する有識者会議」における委員からの主な意見

項目	主な意見
取引の是非	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 日本から違法輸出があり、ブラックマーケット活性化による密猟誘発リスクがある現状は看過すべきではない。 ◆ 現状維持の国際的な評判のリスクは大きい。取引がマルカバツかの議論ではなく、トレーサビリティが確保できないこと等に対し、都がどのように国を助太刀できるか議論すべき。 ◆ 日本市場を制限するかどうかは、密猟とは関係なく、合法市場を維持することが人とゾウとの共存に有益。 ◆ 違法取引ゼロではなく、違法取引を減らすために有効な手段を考えるべき。 ◆ 国の助太刀が都の大きな役割という認識を持ち、提案・提言等を政府に対して実施していけるとよい。
違法な輸出入への対策	<ul style="list-style-type: none"> ◆ オリパラ時の取組は、中長期的な権限が伴う取組の方針を表明した上で、緊急的な措置として進めるべき。 ◆ 短期と中長期の取組が必要。短期的には、販売自粛を促す等の事業者への働きかけが重要。 ◆ 密輸をする悪意を持った人・組織への対策が必要。普及啓発だけでは不十分。 ◆ 身分証明書の掲示や、海外持出が違法であることを説明し同意書を作成することは、効果的。 <p>※東京2020大会時の海外持出対策として、事前にいただいた意見は、第4回会議資料のとおり</p>
透明性の向上 (トレーサビリティ)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 認証を導入する際は、コストの面から、取引可能な例外を設定し、対象を絞ることが必要。 ◆ 違法取引ゼロは難しいので、認証だけでなく、他の手段も組み合わせるべき。 ◆ 実需があるうちは、市場閉鎖をすべきではなく、違法取引防止のためには、加工業者と連携してトレーサビリティを向上することが効果的。 ◆ 認証を使わずに原材料をトレースできるシステムを導入している食品加工会社等の取組も参考にできる。
法制度	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 種の保存法の下でも「都民の法益を守る」ための条例制定は可能。取引禁止は条例事項を超えるが、「厳格な国外持出規制」を基準とし、法が確実に機能するように手続きを規制する条例は可能。 ◆ 現状を改善するためバランスよいコストをかけ、将来の法令改正を誘導できるようにすべき。